

音楽、香り、そして思い出

G組 キムスジョン

特定の音楽を聞いたり香りを嗅ぐと、その音楽を聴いた、その香りを嗅いだ瞬間の記憶がよみがえる。音楽と香りは一般的な記憶よりも長く残り、瞬間瞬間をより鮮明に思い出させてくれる。だからこそ私にとって音楽と香りは思い出を私の心の中に長く保存しこくれる見えないカメラのようなものだと思う。

2018年、暑かった夏。私は生まれて初めてヨーロッパ旅行に行くことになった。強い日差しで疲れた時もあったが、韓国とは全く違う風景と雰囲気がかんな暑さを忘れさせてくれた。その時私は新しい都市に移動するたびに音楽を聴いていた。音楽を聞きながら、汽車の中で美しい風景を見ていると、私がまるで美術館で見た名画の中に入っているような気分を感じることができた。このような様々な美しい風景と思い出がその時に聞いた音楽を聞いた瞬間、まるでそこに戻ったように頭の

中にはっきりと思い浮かぶ。

初めこの旅行先だったスイス。どこを見て

も美しい自然が見られる、夏であつても涼し

かった国だった。妙に神秘的だった氷河が溶

けた水の色、汽車に乗つてユングフラウに登

つた時に感じた自然の驚異的美しさ。

最後の旅行先だったイタリア。青い木々と

草原、過去の姿がそのまま残っている建築物

、暖かい日差しが反射する川辺を散歩する人

々、涼しいカフェでゆっくりとティータイム

を楽しむ老人たち...

今もその時のプレイリストの歌を聞いてい

ると、思い出がまるで映画のように頭の中で

再生される。

私にとって今でも一番記憶に残つていて、

戻りたいと思う瞬間は2019年だ。2019年、私

はサイパンという小さな島で働く機会を持つ

ことができた。一人で外国で暮らすのは初め

てだったのだから最初は不安でいっぱいだった。

しかしそこでいろいろないい友達に出会つた

んだんをこのすべてを愛するようになった。  
 だからこうなのかな。3年が過ぎた今も海  
 辺のレストランで働いていた時いつもつけて  
 いたレゲエ音楽を聞くとピンク色の夕焼けの  
 美しい海辺を眺めていた私の姿が思い浮かぶ  
 。そしてダイニングレストランで聞いていた  
 古いポップソングを聞くと、お客さんに出す  
 デザートを作ったりバーテンダーたちと話し  
 たりしていた私の姿がまるで昨日のようにま  
 ざまざと感じられる。  
 それから、イヴ・サンローランの香水。サイ  
 パンで仕事を始めて初めて買ったその香水  
 は今でも使っている、私が一番好きな香水だ  
 。今の私は日本にいるが、その香水をふきか  
 けた瞬間、私は再びサイパンに、あの時の紫  
 色のカーペットが敷かれた暗かった部屋に戻  
 ったような気がする。また、時には一番良い  
 景色を見せると言っていて毎晩ドライブにつれて  
 いてくれた友達と二人で星を見ながら静か  
 に会話を交わしていた瞬間が思い浮かぶ。

このように毎日聞いている音楽と毎日使  
ている香水の香りの中で私は過去を思い出  
懐かしが、ている。このような懐かしさを思  
うと同時に私がかれから過ごすことになる日  
本は未来の私にどんな音楽と香りで記憶され  
るのか興味深い。  
あの時の私がか毎日幸せだ、たとは絶対思わ  
ない。いまでも思い出す悲しい記憶や後悔が  
あるからだ。しかしそれでも思い出というの  
は過去のことだからこそより美しく記憶され  
るのだと思う。また、そんな過去が音楽と香  
りという美しいものと混ぜり合っ、て、私の心  
の中に写真のように残、ているので、今もこ  
のように想像しただけでも幸せで懐かしく感  
じるようになるのではないだろうか。  
日本での日常も未来の自分に美しい思い出  
として残るように、これからの時間をいい音  
楽と香り、経験でい、ほいに満たせるように  
過ごしたい。